

番組

解説「和泉流と大蔵流と」 大阪樟蔭女子大学客員教授 木村 要

和泉流狂言

船渡躰

ふなわたしむこ

船頭・舅 野村 万作

躰 高野 和憲

姑 深田 博治 後見 岡 聡史

休憩

大蔵流狂言

素袍落

すほうおとし

太郎冠者 茂山 千之丞

主人 茂山 千五郎

伯父 茂山 千作 後見 松本 薫

大蔵流狂言

左近三郎

さこんさぶろう

左近三郎 茂山 七五三

出家 木村 正雄

後見 網谷 正美

祝言

船渡躰【ふなわたしむこ】

八橋(やばせ)の舅の家への「躰入り」に酒樽を持って大津松本から渡し舟に乗った躰が船頭に酒を無心され、湖の上の事とて仕方なく酒を飲ます。初めは一杯のつもりが二杯三杯と成り、遂に樽の酒を皆飲まれてしまう。

躰は是非も無く舅の家に行くが、この舅が船頭と同一人物で、舅の慌てる事。結局、自慢の髭を剃って対面するが、先程の船頭だと判ってしまう。

川の上を船が進んで行く様や、船頭が竿を投げ出し漕ぐ事を止めた後の舟が揺れて流されて行く様などが面白い。

素袍落【すほうおとし】

伊勢参りをする主人の命令で太郎冠者は主人の伯父の所へ使いに掛ける。ところが、主人は太郎冠者が供に行くと伯父に知れると、あの伯父は太郎冠者に餞を呉れるに違いない。そうすれば、こちらとしては帰りに伯父の家の者に土産物を買って来なければならなくなるので、太郎冠者が明日供に行くと言う事は告げるなど言ったにも拘らず供に行く事を伯父に知られ、好きな酒を門出の祝いに振れ舞われ、餞に素袍までも貰ってしまう。

帰宅した太郎冠者は酔い過ぎて、主人の前に餞の素袍を落としてしまい、さあ大変……。

酒に酔って言いたい放題の太郎冠者、それに酒を勧めながらもこやかに対応する伯父、癪性のいらした主人と登場人物も多彩で、特に酒を飲むにつれて段々と酔いが回ってくる太郎冠者の演技が微笑ましい。

左近三郎【さこんさぶろう】

柴岳が宋より帰朝して「臨濟宗」を開いたのが、建久二(1191)年。道元が宋より帰朝して「曹洞宗」を開いたのが、安貞元(1227)年。

日本に渡来した禅宗も、百年・二百年を経過すると墮落坊主が出現して、狂言の風刺の素材にされる。それに対して、獺師までが殺生人生の自己弁護に禅宗論議をするという面白さをテーマにしている。

この狂言の末尾で、出家が胸の内に三尊の弥陀がいらっしゃると言ったのに対して、獺師はその弥陀が見たいので胸を割って見せろと言った時、出家は和歌を詠む。出典は未詳だがその和歌が傑作である。

年毎に咲くや吉野の山桜 木を割りて見よ花の在処(ありか)は

すつとぼけた終末を引き出す和歌とは言え、面白い。

狂言解説

出演者紹介



茂山 千作

【シゲヤマ センサク】

1919年(大正8年)生、3世 茂山千作の長男。
1994年(平成6年)4世 千作襲名。
1923年(大正12年)『以呂波』のシテで初舞台。
1934年(昭和9年)『三番三』、1940年(昭和15年)『釣狐』を披く。
明るい雰囲気、芸は抜群。海外公演・新作狂言にも参加し、NHKドラマにも出演する。文化功労賞。日本能楽会会員。人間国宝。重要無形文化財総合指定保持者。



茂山 千之丞

【シゲヤマ センノジョウ】

1923年(大正12年)生、3世 茂山千作の次男。
1926年(大正15年)『以呂波』のシテで初舞台。
1935年(昭和10年)『三番三』、1946年(昭和21年)『釣狐』を披く。
写実的芸風で口跡もよく、新劇・歌舞伎にも積極的に参加し、新作狂言の出演も多い。
日本能楽会会員。重要無形文化財総合指定保持者。



茂山 千五郎

【シゲヤマ センゴロウ】

1945年(昭和20年)生、4世 茂山千作の長男。
1994年(平成6年)13世 千五郎襲名。
1949年(昭和24年)『以呂波』のシテで初舞台。
1961年(昭和36年)『三番三』、1966年(昭和41年)『釣狐』を披く。
茂山家の当主として、弟の七五三・千三郎、従兄弟のあきらと共に、関西狂言会で活躍している。
日本能楽会会員。重要無形文化財総合指定保持者。



茂山 七五三

【シゲヤマ シメ】

1947年(昭和22年)生、4世 茂山千作の次男。
1995年(平成7年)七五三を襲名。
1951年(昭和26年)『以呂波』のシテで初舞台。
1965年(昭和40年)『三番三』、1969年(昭和44年)『釣狐』を披く。
癖のない素直で確実な演技に好感を持つ人は多く、明日の狂言界を担う逸材として囑望されている。
日本能楽会会員。重要無形文化財総合指定保持者。



野村 万作

【ノムラ マンサク】

1931年(昭和6年)生。故6世 野村万蔵の次男。
1950年(昭和25年)万作を襲名。
1934年(昭和9年)『鞆猿』で初舞台。
祖父 故初世 野村萬斎及び父に師事。
早稲田大学文学部卒業。狂言の最高秘曲である『釣狐』の演技で芸術祭大賞を受賞した。国内外で狂言普及に貢献し、古典はもとより新しい試みにもしばしば取り組む。また後進の指導にも定評がある。日本能楽会会員。人間国宝。重要無形文化財総合指定保持者。



深田 博治

【フカタ ヒロハル】

1967年(昭和42年)生。野村万作に師事。
国立能楽堂・能楽三役第4期研修修了。すでに『奈須与市語』『三番叟』『道成寺』の間狂言なども披き、「万作の会」の演者の一人として活躍している。
能楽協会会員。



高野 和憲

【タカノ カズノリ】

1972年(昭和47年)生。野村万作に師事。
国立能楽堂・能楽三役第4期研修修了。すでに『奈須与市語』『三番叟』『道成寺』の間狂言なども披き、「万作の会」の演者の一人として活躍している。
能楽協会会員。



木村 正雄

【キムラ マサオ】

1929年(昭和4年)生。木村政一の長男。
1932年(昭和7年)『以呂波』のシテで初舞台。
1972年(昭和47年)『三番三』、1974年(昭和49年)『釣狐』を披く。
狂言の普及に力を入れ、新作狂言をも27作創るなど、新しい狂言の在り方に努力し、第3回世界水フォーラムにて『琵琶の湖』を発表。
日本能楽会会員。重要無形文化財総合指定保持者。